

第7回下川町総合計画審議会会議 会議録

日 時 令和4年12月1日(木)
18時30分～19時30分
場 所 ハピネス大広間

1 開会 18時30分

2 会長挨拶(麻生会長)

各部会での議論を終えて、本日はまとめの作業となる。これまでは最終確認をして承認を頂く場であったが、今回は皆さんで審議する内容があるということなので、最後まで積極的な議論をお願いしたい。

3 案件

令和4年度総合計画の見直しに係る部会報告等について

- ・福祉教育部会 質疑なし
- ・快適環境・地域づくり部会 質疑なし
- ・産業経済部会 質疑なし

・答申書案について

町 : 内容説明

委員 : 通常は「妥当と認めます」という書き方が慣例となっている。これまでは基礎的財政収支(プライマリーバランス)が黒字化の計画であったが、このまま赤字が続くようであれば、危機感が伝わるような書き方が良い。

委員 : 他に意見があれば伺いたい。コメントや感想でも構わない。

委員 : 「大きな不安が残る」という書き方が良いと思う。

委員 : 前回の全体会議で多くの事業が記載されており、5～7年まで赤字となっていた。これで良いのか不安があったが、やらなければならない事業がたくさんあるためこのような計画となっていると理解している。ただ、赤字が続くのは不安がある。

委員 : 個人的に、疑問を投げかけることは賛成である。普段と違う内容の答申を出すことで、思いがけない波風が立たないかが気になる。どういうところに影響があるのかはわからない。基礎的財政収支(プライマリーバランス)の黒字を目指していくという説明を受けてから、新規事業の審議をたくさんしてきた。新しいことに取り組むこ

とは良いことではあるが、新しいことを始めるには、事業を減らしていく必要がある。それを進めていただけるためのものであれば記載した方が良い。

委員 : 皆さんの思っていることと同じ意見である。懸念する部分として、単純に数字だけを見て、駄目だという意見だけではなく、予算を組んでいる中でそれなりの理由があるかもしれない。赤字が3年間続くが必要のある事業で削ることができないということであれば答申の記載にも配慮が必要である。

町 : 事務局の立場としては、どちらの方向性に誘導するつもりはないが、審議会としての意見として、文字として残すことは大切である。波風が立つかはわからないが、答申を受けて、行政がどう受け止めて、どう考えていくかが大切である。必要な事業があることは事実であり、経費がかかってしまう部分もある。事業を選びながら新し財源を確保していき、生み出したお金で新しい必要な事業に活用していく必要がある。

町 : 数字は正直なものである。数字が出てきた根拠は事業を見直す根拠である。十数年前までは、計画と予算は別のものとしていた。本来は計画にないものはやらない。お金がないのに無理して事業を増やし、次世代に負担を残していくことは、リスクが大きい。次の世代を考えて皆さんと議論してきたが、行政改革の進捗が遅いという意見のとおり、結果として数字に表れている。今後想定される大型事業はまだあり、今後出てくる。皆さんから厳しい意見をいただきながら事業を進めていくことが大切である。

委員 : 「事務事業」という言葉が「事務作業」を連想させてしまう。また、「選択と集中」という言葉だと廃止が連想されづらい。

町 : 「事務事業」を「施策」に変えるとわかりやすいか。

委員 : 町民が見た時に意味が通じれば良い。

町 : 「事務事業」を「施策と事業」に変更させていただく。

委員 : 施策と事業の違いが分かっているが、意味が違っていなければ良い。

委員 : 「選択と集中」を「取捨選択」に変えていただいた方が廃止の意味合いが伝わるのではないか。

町 : 修正する。

4 その他

町 : 今回の会議で審議した内容を修正し、明日（12月2日）10時に、会長から町長に答申の報告をしていただく。また、総合計画のアンケート調査を実施しているため、未回答の場合は協力をお願いしたい。

5 閉会 19時30分